

ご報告「地域医療連携協議会」を開催

去る2025年8月7日(木)14時30分より、当院3階講堂にて地域の医師会の役員の先生方と「地域医療連携協議会」を開催いたしました。当院へのご要望や確認、地域の最近の状況など多岐にわたりさまざまな意見交換を行わせていただき、たいへん有意義な時間となりました。あらためて、今回ご参加くださった先生方に御礼申し上げます。



今後も定期的にこのような場を設けさせていただき、地域医療へのさらなる貢献を目指して日々精進していきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

ご報告 ボランティア活動の再開

今年度に入り、当院では約5年ぶりにボランティア活動を再開しました。現在は、傾聴、楽器演奏、アロマセラピー、移動図書、生け花の活動をしていただいております。お陰さまで、ボランティアの方とお話ししたり、一緒に歌ったり、アロマの香りとマッサージに癒されたりするひとときは、患者さんからも大変好評です。ただいま移動図書、裁縫ボランティアを募集中です。興味のある方は、ぜひ当院のホームページよりご応募ください。



●記事内容訂正のお知らせとお詫び

8月に発行いたしました『メディカルぽっぽ vol.32』の掲載内容に誤りがございました。

つきましては、下記の通り訂正させていただきます。

ご迷惑をおかけいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。

〈訂正箇所〉
P4 帯状疱疹ワクチン
定期接種の対象者

・令和7年度に以下の年齢になる方	
対象者	生年月日
65歳	昭和35年4月2日生～昭和36年4月1日生
70歳	昭和30年4月2日生～昭和31年4月1日生
70歳	昭和25年4月2日生～昭和26年4月1日生
80歳	昭和20年4月2日生～昭和21年4月1日生

（誤）

・令和7年度に以下の年齢になる方	
対象者	生年月日
65歳	昭和35年4月2日生～昭和36年4月1日生
70歳	昭和30年4月2日生～昭和31年4月1日生
75歳	昭和25年4月2日生～昭和26年4月1日生
80歳	昭和20年4月2日生～昭和21年4月1日生

（正）

“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】
安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院

Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221(代表) FAX.06-6628-2287(代表)
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ <https://www.jrosakahosp.jp>

受付時間／午前8時30分～午前11時00分 診療開始／午前9時00分～
休診日／土日祝・年末年始(12月30日～1月3日)



「診療科 UPDATE」

乳腺外科

ドクターインタビュー
部長 米倉 利香

Doctor Message
医長 小林 澄

ようこそ 臨床検査室へ
インフルエンザに備えよう

2025年度新人看護師紹介

スタッフ紹介
事務部長 宮本 晃

Radiation Station
ピンクリボン月間



大阪鉄道病院初！乳腺専門医のリーダーシップのもと乳がんの診断・治療に邁進

このたび、乳腺専門医を部長に迎え、新体制を構築した乳腺外科。乳がん診療を中心に最新の知見、技術をフルに発揮するとともに、細やかな配慮をもって患者さんに寄り添う取り組みを実践しています。

ドクターインタビュー 部長 米倉 利香（よねくら りか）

専門分野／乳腺

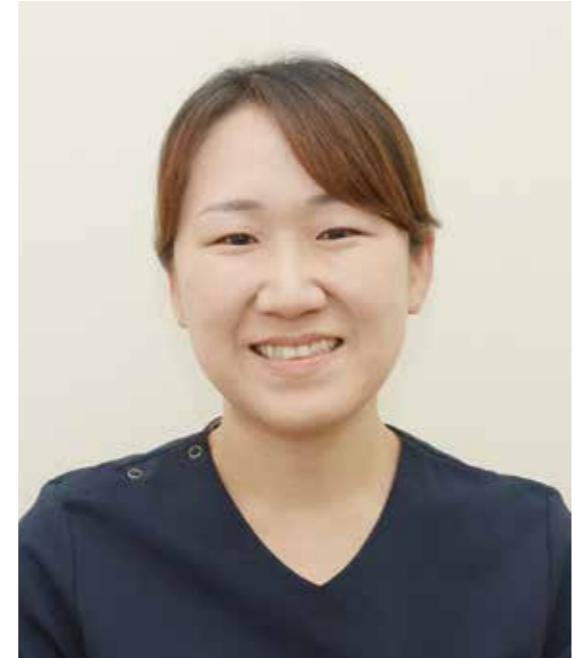
資格／日本乳癌学会認定乳癌専門医・認定医、日本外科学会認定外科専門医、日本遺伝性腫瘍学会認定遺伝子性腫瘍専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影医・乳がん検診超音波検査実施・判定医

—この春に部長として赴任して半年が経ちましたが、大阪鉄道病院の印象はいかがですか

当院の魅力は「人」だと思います。スタッフは職種を問わず親しみやすく、明るく前向きで患者さん思いです。たとえば、外来を受診された患者さんが通りがかった看護師にご自身の体調や近況を生き生きと報告されていました。また、逆に私が診察だけで把握しきれない患者さんの背景を看護師がよく把握していて、教えてくれたりします。まるで自らの家族のように患者さんのことを気にかける、これは教えられてできるようになることではありませんよね。当院の長い歴史の中で自然に培ってきたものだと思います。

—天王寺、阿倍野という土地柄もあるかもしれませんね

確かに！私は長く東京で医師として勤務していましたが、もとは京都出身であることに加え、このあたりは夫の出身地でもあり特に親しみを感じています。道ゆく人々でさえみなフレンドリーでやさしく、東京ではなかった人情にふれることも多くて（笑）。当院のこととも地域のこととも、たちまち大好きになりました。



—嬉しいお言葉です。ちなみに、この春までの先生のご経歴は

京都府立医科大学を卒業後、東京のがん研有明病院と、がん・感染症センター東京駒込病院を経由して、ご縁があり当院に赴任しました。最も長くいたのはがん研有明病院で、約9年間在籍しました。

—がん研有明病院といえば、日本トップクラスのがん専門病院ですよね

乳がん治療においても日本を牽引する施設のひとつで、乳がんの手術件数は年間1200件超と日本一です。毎日いろいろなカンファレンスがあり、自分が直接担当していない症例もまるで自分が経験したかのように勉強することができ、また最新の乳がん治療の情報もいち早くキャッチできました。都心部のがん専門病院で多くの症例を経験できたことで、乳腺外科医として大きく成長できたと思います。

—そんな経験を経て、治療の上で重視されているのはどんなことですか

患者さんの意思や価値観を尊重し、患者さんが納得した上で治療を進めることです。患者さんが病気や治療を正しく理解していただけるようにわかりやすく説明します。また、乳がんの早期発見に努め、治療後は早期に回復されるように心のこもった治療を提供するように心がけています。私たちは乳がんという病気だけを治療するのではなく、患者さんの伴走者となり、いつも励まし、癒し、その方の人生を応援する存在でいたいと思っています。

—当院における乳がん治療の特色をお聞かせください

診療方針は、「迅速に明確な診断を行い、丁寧にわかりやすく説明する」ということ。「迅速」という部分では、受診いただいた日にマンモグラフィと超音波検査を受けていただき、結果を説明させていただきます。また、必要があれば同日中に相談の上で針生検などの精密検査に進むようにしています。ここまでスピーディーは、当院の規模感に加え、スタッフのマンパワーとチーム力の高さがあってこそ。特に病理診断の早さには感服しました。診断を待つ不安な時間が短いのは、患者さんにとって大きな魅力だと思います。

—受診、診断から治療開始まではどのくらいの期間をめやすとされていますか

まず、地域の先生から紹介をいただいた場合、受診を希望される方が速やかに受診いただけるように、初診予約はなるべく1週間以内に取得していただけるようにしています。その上で、乳がんの確定診断がついた方に関しては、可能な限り診断から1ヶ月以内に手術を受けていただけるように調整しています。仕事や介護などの事情で、治療に関する日程の調整をご希望の方は、安心して治療を受けていただけるようにできる限りの配慮をさせていただきますので、遠慮せずにご相談ください。

—最後に、誌面をご覧になるみなさんへメッセージをお願いします

まず、胸に不安な症状のある方はぜひ受診してください。乳がんが発覚し、治療を受ける病院を迷っておられる方は

+α 乳がん治療への思い

私は多くの症例を体験してきましたが、患者さん一人一人が抱く「乳房を失う悲しみ」と「乳がんに罹患したつらさ」を背負う気持ちで、一例一例を大切に手術に臨んでいます。抗がん剤治療などの薬物療法は、薬物や投与量、投与期間が定まっていますので、担当医によって大きな違いは生まれませんが、手術は異なります。患者さんにとって一生に一度の大手術になることを十分に理解し、準備を怠らず丁寧な手術を心がけています。その積み重ねが、根治性と整容性をかなえる手術（オンコプラスティックサーチャーリー）を目指すことにつながっていると思います。同時に、乳がんに罹患した患者さんの気持ちにいつも寄り添い、傷ついた心も癒せる存在でいたいと思っています。以前、乳がん治療を受けておられた時に辛くていつも泣いていた患者さんが、10年くらいたってから結婚して子どもができたと手紙をくださったこともあります。病気を乗り越え、ハッピーなことが起きた時に報告してくださると、私もとても幸せな気持ちになり、そのことが私のやりがいにつながっています。

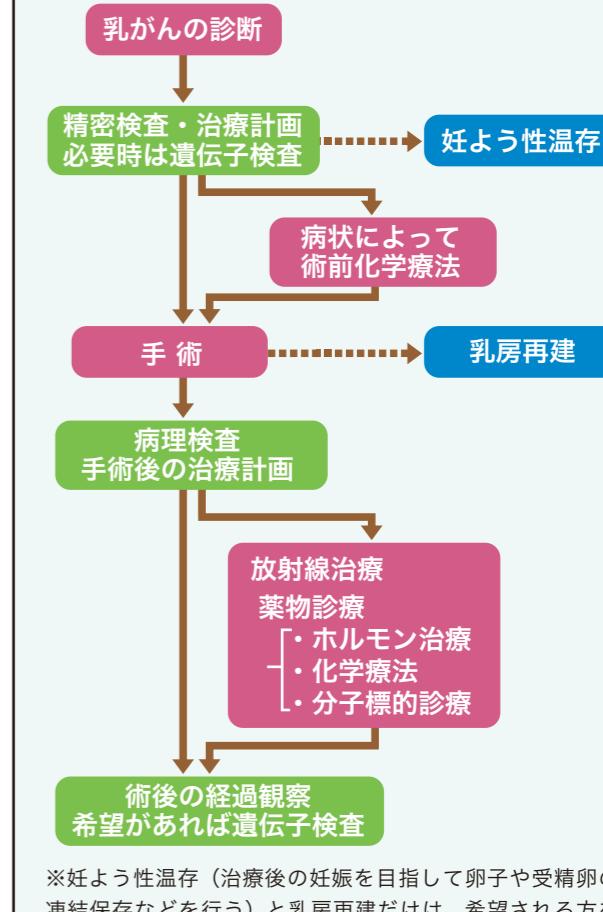
ぜひ当院で治療を受けてください。また、患者さんを支えるご家族の方は、少しでも気がかりなございましたら遠慮せずにご相談ください。私たちは安心して治療を受けていただけるように心をこめてサポートさせていただきます。私自身、当院での初の乳腺専門医として、今まで培ってきた経験と知恵を生かし、患者さんにとってよいと思われる最新の治療を積極的に取り入れ、「鉄道病院で治療を受けてよかった」と言っていただけるように診療にあたっていきたいと思います。今後は地域の先生方にさらに安心して患者さんをご紹介・ご相談いただける乳腺外科を目指して、チーム一丸となって取り組んでまいります。

大阪鉄道病院の乳がん治療

当院は大阪府がん診療拠点病院として、大学病院やがん専門病院と遜色ない治療を提供することを心がけています。基本的にはすべての乳がん治療を当院で一貫して受けさせていただくことができます。

受診いただきやすい環境づくりとして、女性を中心のスタッフが診療にあたっています。マンモグラフィは女性技師が担当し、火曜から金曜は毎日乳腺専門の女性医師が診療しています。

当院の乳がん治療の流れ



※妊娠性温存（治療後の妊娠を目指して卵子や受精卵の凍結保存などを行う）と乳房再建だけは、希望される方を対象に専門施設に紹介させていただきます。

乳腺専門医の最新情報 乳がん治療の「今」

注目点1／新薬が続々登場

乳がん治療では、新規薬剤の登場により、薬物療法が日々大きく変化しています。

乳がんの中でも予後が悪いトリプルネガティブの乳がんでは、化学療法に抗 PD-1 抗体薬（免疫療法）を併用することで、化学療法の効果が向上し、生命予後の改善にもつながることが明らかになりました。2022年に周術期にも適応拡大となり、術前化学療法に抗 PD-1 抗体薬が併用されるようになりました。また 2025 年には新たな抗体薬複合体 (ADC) が転移再発乳がんの治療において保険承認されました。

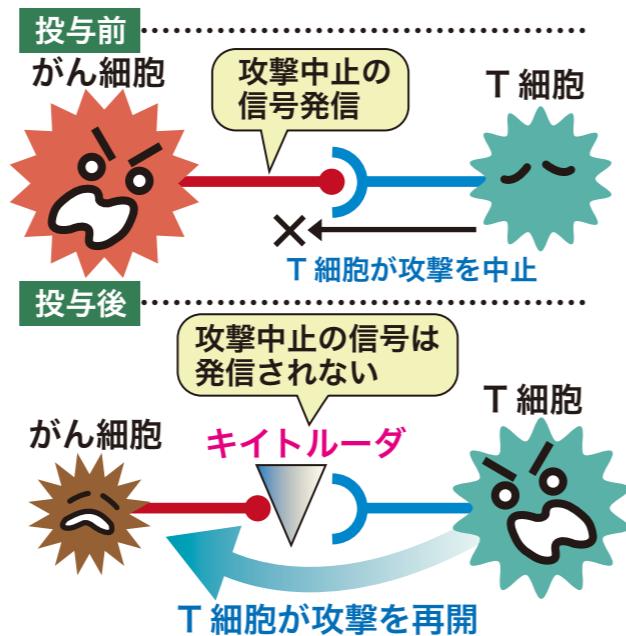
注目点2／低侵襲治療の進展

手術に関しては、手術縮小について世界的な検討が広がっています。

乳がんでリンパ節転移がある方に対して行われる腋窩リンパ節郭清術は、受けられた方の3人に1人の割合で術後に腕のリンパ浮腫（むくみ）が発生してしまうといわれ、患者さんにとって負担が大きい手術となります。

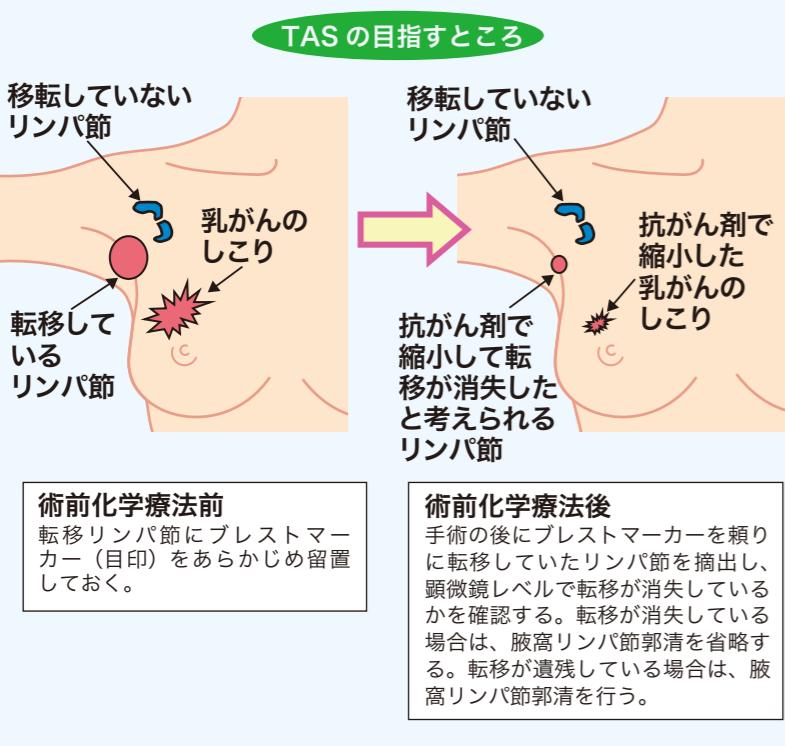
しかし 2011 年に海外での大規模臨床試験の結果が発表されて以降、国内でも乳房部分切除術の際には

抗 PD-1 抗体薬（キイトルーダ）の働き



センチネルリンパ節に転移が判明しても腋窩リンパ節郭清が省略されることが一般的になりつつあり、これは非常に大きな変化だったといえます。

現在はリンパ節転移がある乳がんで、手術前の化学療法で著明に効果が得られ、手術時には画像検査でリンパ節転移の消失が考えられる方に対して、TAS(Tailored axillary surgery)による腋窩リンパ節郭清の省略について検討が進んでおり、2025 年の乳がん学会でもたくさんの議論が行われていました。



米倉部長を迎えて、進化を続ける
乳腺外科に私自身もワクワクしています

医長 小林 澄 (こばやし すみ)

専門分野／乳腺
資格／日本乳癌学会認定乳癌認定医、
日本乳がん検診精度管理中央機構検
診マンモグラフィ読影医・乳がん検
診超音波検査実施・判定医



私は当院乳腺外科の常勤医になって 5 年目を迎えました。これまで、上司や看護師、メディカルスタッフとともに前向きに診療に取り組んできましたが、一方で個人的なことではありますが家事・育児と仕事とのバランスをとりながら乳腺外科医としてのキャリアをどう形成していくべきかで、悩んでもいました。そんな中での、乳腺専門医・米倉部長の赴任。東京のがん研有明病院をはじめとする最前線で培ってこられた技術と経験への敬意はもちろん、家庭を持つ女性としても大先輩であり、お会いした瞬間に私が目指す人がここにいるという喜びに打ち震えました。今もその感激は更新され続けています。

実際、持ち込まれる最新の知見、技術には感服するばかり。さらには乳腺外科という特性上、診療には私自身も気を配ってきたつもりだったのですが、患者さんへの声かけひとつ、エコーの当て方ひとつとってもより繊細な心遣いを示される姿に、新たな学びを得るばかりです。それは私だけでなく、他のスタッフも同様で、これまでもチームワークのよかつた乳腺外科ですが、さらにブラッシュアップされ団結力が高まったと実感しています。

また、従来は症状が落ち着かれた患者さんの経過観察、継続治療まで当院で継続することが多かったのですが、患者さんが増加している今、乳がんで最も大変な時期となる初診から手術、抗がん剤治療までをより手厚く対応するためにも、かかりつけ医の先生との役割分担の明確化が必要です。すでにクリニックの先生との連携も密に、「乳がん連携パス」を入れて診療体制を再構築しているところです。

患者さんに温かに寄り添い、ともに乳がん克服を目指す乳腺外科として、どんどんパワーアップしていく当科に、ぜひご期待ください。

Radiation Station

ピンクリボン月間

ご存知ですか？「ブレスト・アウェアネス」

「乳房を意識して生活する習慣」を意味女性にとって非常に重要な生活習慣の関心を持ち、変化を感じたら速やかに医けましょう。

「ブレスト・アウェアネス」

1. 自分の乳房の状態を知る

自分の乳房のセルフチェックを習慣にすることで、異常があればすぐに気がつくことができます。

2. 乳房の変化に気をつける

乳房にしこりはないか / 乳頭からの分泌物はないか / 皮膚のただれなどはないか / 皮膚のへこみやくぼみ、ひきつれはないか

4つのポイント

3. 変化に気づいたらすぐ医師に相談する

少しでも気になる点があれば、検診を待たずに専門の医療機関を受診しましょう。

4. 40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける

少なくとも 2 年に 1 回は検診を受けるようにしましょう。

放射線部門

ここが安心！大阪鉄道病院の乳がん検診

●ピンクリボンアドバイザーが在籍！

ピンクリボンアドバイザーの主な役割は、乳がんを正しく理解し、一人一人に寄り添う優しい社会に向けて活動することです。友人や知人に乳がん検診を勧めたり、イベントを通して検診の重要性を広めたり、乳がんにまつわるさまざまな問題の解決を目指し活動しています。

●マンモグラフィは女性技師が撮影！

当院放射線科には現在 4 名の女性技師が在籍。大阪市乳がん検診の受託機関でもあり、マンモグラフィ撮影はすべて「検診マンモグラフィ撮影認定者」である女性技師が対応しています。

「大阪市乳がん検診」の受託検診日は毎週水曜日
あらかじめ、当院の窓口にて検診のお申し込みが必要です。

対象年齢：受診日現在 40 歳以上の女性大阪市民

受診回数：2 年に 1 回

受診利用料：1,500 円

実施日：毎週水曜日

※詳しくは大阪市のホームページをご確認ください。

【問い合わせ】大阪鉄道病院 06-6628-2221 (代表)



はじめの一歩を踏み出そう

いまや 9 人に 1 人が乳がんに罹患するといわれています。

まだ乳がん検診を受けていない方、善は急げ！です。乳がん検

診の受診予約をしましょう。

スタッフ紹介

良質な医療を提供し続けるために
健全な病院経営を支え、
働きやすい環境の整備を

事務部長就任へ

はじめまして。今年6月に事務部長として当院に赴任した宮本晃と申します。よろしくお願い申し上げます。

5月末まではJR西日本本社人財戦略部にて勤務・賃金・福利厚生制度を所管する部長を務めておりました。人事部門での経験が長いですが、数年前は広島支社副支社長や中国統括本部という新組織をつくる責任者、その新組織の経営企画部長等、中国地方エリアの鉄道事業の経営に携わる仕事をしてまいりました。

本格的に病院経営に携わることは、初めてのことです。しかし関係する方々に誠実に対応し、課題に正面から向き合ってひとつひとつ解決していくということには変わりがないと思っています。私自身、勉強を重ねながら、周囲の意見に耳を傾け、病院経営の一翼を担えるように成長していきたいと思っております。

変化する環境への対応を

病院の事務部の役割は、院長の方針のもと、経営の舵取りを行うことです。現在、病院経営は全国的に非常に厳しい環境に置かれています。患者さんの高齢化はますます進み、人材獲得競争の激化、人件費や医療材料費の高騰、医療技術革新やDX化に伴う設備投資の必要性など、社会情勢の変化に伴うさまざまな課題が山積しています。これらにいかに迅速・柔軟に対応し、収益性と社会的使命を両立させることができる病院経営を行うか、課題の大きさに身が引き締まる思いです。重要なのは、人材、予算、設備、環境等のリソースを整え働きやすい環境を整えること。そうすることで、自ずと医師・看護師・メディカルスタッフ・事務部門の一人一人が使命感と積極性を持ち技術・技能を向上させるとともに、連携を強めチームワークを高め病院としても発展がかなうものと考えます。

患者さん、連携させていただいている医療機関、そして地域のみなさまに、安心・信頼していただける良質な医療を提供するという使命を胸に、これまで以上にみなさまにより信頼され愛される病院に進化すべく、病院職員が一丸となってがんばれるよう尽くしてまいります。



事務部長 宮本 晃



ただいま成長中！

2025年度入社の新人看護師紹介

今年度、看護部では4月1日に看護師23名を迎え入れました。新人看護師たちは1ヶ月間の研修後、急性期病棟に配属され、現在は若葉マークを名札につけて、日々新しい知識や技術の習得に努めています。一人一人が看護部の理念を心に刻み、安全を重視しながら、これからも看護実践の機会を増やしてまいります。

医療関係者のみなさま、地域のみなさま、どうか新人看護師の成長をあたたかく見守っていてください。

看護部理念

私たち温かいこころで信頼される看護を提供します



看護部

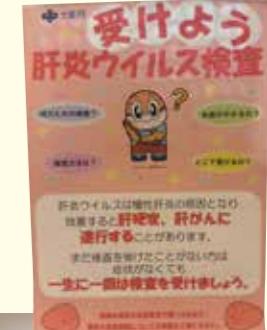
正しく伝えたい！肝炎の知識と検査の重要性 「肝臓週間」の取り組みについて

世界保健機構（WHO）と日本が定める肝炎デー 7月28日を含む1週間は、「肝臓週間」。今年もこの期間、当院では3年前から肝炎コーディネーターが中心となって、肝炎検査受検に向けた啓蒙活動をはじめ、陽性者の早期受診や継続的な治療の促進、肝炎に関する情報提供や相談対応などを行っていました。

肝臓は「沈黙の臓器」とも呼ばれ、症状が出にくい特性があるため、専門医による定期的なチェックが重要です。当院には肝臓専門医が3名在籍しており、肝臓疾患の早期発見、適切な診断と治療を受けることができます。

これまで肝検査を受けていない方を対象に、無料検査も実施しております。ご希望や不明点があれば、医事課までお問合せください。

医事課／06-6628-2221（内線2110）



今年の肝臓週間も、
数々の活動を行いました！

ようこそ臨床検査室へ

【大阪鉄道病院の臨床検査室】

長かった猛暑も終わりを告げ、涼しさを感じる季節となっていました。
ということは・・・

今年もインフルエンザの流行シーズンが迫っています。
インフルエンザかな？という不調を感じたら、感染拡大を防ぐためにも、
まずは医療機関で検査と診断を受けましょう。

〈インフルエンザの症状は？〉

感染 → 発症
約1~3日



〈感染経路は？〉

飛沫感染・接触感染

大阪市のインフルエンザ発生状況を
リアルタイムで知りたい方はこちら



軽快

◎症状が出る1日前から発症後5~7日以内に他の人に感染させる可能性があります。
体調不安があるときは、自宅療養か受診を。咳エチケットの実施も大切です。

〈予防のために大切なこと〉

- 流行前のワクチン接種
- 外出する時はマスク着用
- 帰宅後の手洗い・うがい
- 適度な換気をし、適切な湿度(50~60%)を保つ